

令和4年度 第2回伊勢原市環境対策審議会 会議録

〔事務局〕 環境対策課

〔開催日時〕 令和4年11月30日（水曜日）午後2時から5時まで

〔開催場所〕 伊勢原市役所 2階 2C会議室

〔出席者〕

（委員）杉山委員（会長）、武藏委員（副会長）、藤本委員、南澤委員、宮垣委員、
濱田委員、新谷委員、木村委員、大木委員

（事務局）石田経済環境部長、田中環境対策課長 外2名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

〔審議の経過〕

1 開会

2 部長あいさつ

3 議題

（1）第3次伊勢原市環境基本計画（案）について

事務局より、第3次伊勢原市環境基本計画（案）について説明の上、審議された。

（2）その他

4 議題に対する意見等

・第3章

（委員）33ページの大目標の前計画との比較について、前計画の並びも本計画と同じにした方が分かりやすい。

（事務局）本計画と同じ並びに修正する。

（委員）WEBアンケートの条件や詳細が知りたい。

（事務局）18ページに条件を記載している。質問項目は巻末に追記する。

・大目標1 カーボンニュートラルの推進

（委員）CO2削減率の目標だけでなく、削減量も記載した方が目標をイメージしやすいのではないかと。目標とする削減量を36ページの施策体系に記載してはどうか。

（事務局）36ページに記載する。

（委員）51ページの土地系の太陽光発電の再エネポテンシャルについて、すでに導入されている分も含まれているのか。また、導入量の目標達成に向け、どの程度の農地等に導入する目安はあるのか。

（事務局）ポテンシャルにはすでに導入されている分も含まれている。導入目標について、例えば、住宅何件分に必要等の目標については計画中に記載していないが、進捗状況

についてはより細かい内容で年次報告の中でお示ししたいと考えている。

(委員) 45ページの充電設備等のインフラ整備について、電気自動車と急速充電器等のインフラ整備は両輪であると考え。事業者等と連携して適切な情報発信等を進めていただきたい。

(事務局) 了解した。

(委員) 69ページのスクミリンゴガイへの対応について、農薬の購入支援とあるが、環境配慮農業の取組と矛盾するように思う。農薬以外の対策もあると思うが、それについてはどのように考えているか。

(事務局) 農薬については、駆除に必要な量を使うという意味で記載をしている。農薬以外にも、例えば、用水路の土を除去することも駆除には効果があるので、そのような取組も追記する。

(委員) 69ページの市の取組内容について、他の記載と合わせて所管する部署等を記載してはどうか。

(事務局) そのように修正する。

・大目標2 循環型社会の構築

(委員) 76ページのアンケート結果について、5年前と比較して環境に対する意識は悪化しているように見えるがその原因はどのように考えているか。

(事務局) 新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止になっているので、啓発が行き届いていないことも影響していると考えている。

(委員) 75ページのごみの発生抑制に関する事業者の取組については、もう少し記載を増やしても良いのではないか。

(事務局) 関連する個別計画と整合している内容ではあるが、記載方法は工夫をする。

(委員) 目標年次についても、関連する個別計画と整合しているとのことなので、個別計画を参照する必要がある場合は、各ページにその旨を記載した方が分かりやすいと思う。

(事務局) 個別計画に関する補足説明を記載する。

(委員) ごみの減量化を推進する人材とは具体的にどのような人なのか。

(事務局) 各自治会に廃棄物減量等推進委員という役割があり、彼らがリーダーシップをとり、市民に対して啓発や研修を行っている。また、市の職員も出前講座にて環境教育を行っている。

・大目標3 快適な生活環境の保全

(委員) 80ページの目標の並びについて、河川、大気、下水の順番になっているが、水関連でまとめる意味で、大気、河川、下水としてはどうか。

(事務局) 順番は見やすくなるよう修正する。

(委員) 81ページの公害対策について、公害になり得る事業活動の母数は今後も変わらないように思う。そのような中で苦情を減らしていくことは可能なのか。

(事務局) 公害苦情の内容は時代によって変化があるが、御指摘のとおり事業活動や事業所の新設は続くので苦情の要因が減ることはない。しかし、事業者への環境法令の遵守等を働きかけることで、1件でも苦情の数を減らすのが市の役割と考えている。

(委員) 93ページの公共交通の利用者数の目標設定はどのような考えで設定をしたのか。

(事務局) コロナ禍後の社会意識変化に鑑み、利用者数を維持していく目標とした。

(委員) 94ページの市民の取組について、公共交通の理解を深めるとあるが、市としては公共交通の利用転換の働きかけはしないのか。

(事務局) 公共交通の利用は環境負荷の低減につながる面もあるが、地域ごとの利用状況もあるので、理解を深めるという表現にしている。

(委員) 82ページの市の取組に、化学物質と農薬についての記載があるが、もう少し具体的な内容が分かるが良い。

(事務局) 除草剤を含めた農薬の使用については、農薬取締法に基づいた適正使用の周知啓発を各所に対して行っている。

(委員) 92ページのアンケートでは、緑化に努めていると回答している方が減っている。実際、新築の住宅には緑が少ないと感じている。

(事務局) 担当課で、花いっぱいプロジェクト等の活動を行っているので、そのような施策を通じ、市民や事業者の緑化に対する意識を高めていきたい。

・大目標4 豊かな自然環境との共生

(委員) 100ページの目標について、国のみどりの食料システム戦略に基づいているものなのか。

(事務局) 担当課に確認する。

(委員) 101ページのアンケートで、地場産の農畜産物を購入する割合は5年前から減っているが、この原因にコロナ禍は関係ないとする。また、どこに行けば地場産の農畜産物が買えるのか、市から情報発信が必要ではないか。

(事務局) 食品の地産地消はカーボンニュートラルの面でも重要な取組である。必要な働きかけは検討していきたい。

(委員) 農家が抱える重要な課題として人の不足がある。市が主導して農業とふれあうイベントを増やしていく等、本市の地域特性をもっと活かした情報発信を行ってはどうか。親世代に興味がないことは、子世代にも伝わらないので、継承させていくことは重要である。

・大目標5 次世代を担う人づくり

(委員) 各主体の取組の中で市民の取組について記載があるが、どうすれば計画で書かれて

いる取組ができるようになるのか、市の方で情報を整理する必要があると考える。例えば、COOL CHOICE とはどのようなものなのか、何をすればいいのかといったことをまとめた WEB サイトがあるといい。

(事務局) COOL CHOICE についてはホームページで発信をしている。食の地産地消等についても、市民が行動を起こせるよう必要な情報発信を検討したい。

5 閉会